

令和7年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会

日時：令和7年7月29日（火）13：30～15：30

場所：久慈地区合同庁舎 6階 大会議室

1 開会

【似内副局長】 定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会を始めさせていただきます。

私は本日の進行を務めます、久慈地区担当の副局長の似内です。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに県北広域振興局佐々木局長から一言御挨拶申し上げます。

2 挨拶

【佐々木局長】 皆さん、こんにちは。今日は大変暑い中、お越しいただきまして大変ありがとうございます。

実際はたくさんの構成員の皆さんにお集まりいただける予定で日程を組ませていただきましたけれども、急遽御欠席という連絡をちょうだいしておりまして、体調崩されたのでなければいいなという思いもしているところでございます。いずれ暑い中、本当に足を運んでいただいて、ありがとうございました。

この懇談会ですけれども、これまでも御出席いただいた皆さんでございしますが、地域の施策のあり方ですとか、そういったものを皆さんと共有しまして、御意見をちょうだいするという考え方で、年2回開催させていただいているものでございます。

岩手県民計画がございまして、2019年度から2028年度までの10年計画となっており、現在は第2期の3年目となります。全体で見ると今年は7年目となり、来年が8年目、あと残り2年が最後の3期ということになるわけですが、今年は人口問題対策として、人口減・社会減対策、それからGX（グリーン・トランスフォーメーション）、それからDX（デジタルトランスフォーメーション）、それから安全・安心な地域づくり、この4つを重点事項に県としては、様々な取組を進めているというような状況になっております。

特に、この地域で深刻な人口問題については、市町村と一緒に進めるというのが、非常に大切だと思っております。一体となってワーキンググループを作ったり、様々な取組を検討しながら進めているというような状況にございます。振興局といたしましても、様々な産業分野の担い手問題が深刻化していますので、そういった部分も含めて、担い手確保の取組ですとか人口を確保するための移住定住の問題、それから今、世界的に注目されている、日本が立ち遅れている分野の女性活躍問題、そういったところを、しっかり着実に進めていかなければいけないと考えておりまして、様々な取組を進めていると

ところでございます。特に女性活躍については、都市部と違って地方では遅れているような状況がございまして、いわゆるアンコンシャス・バイアスというのがなかなか払拭できないような状況が、今の若者を遠ざけている結果になっているのではないかなという見方が我々も危機感として持っている状況がございまして。

それから、地域には人口問題にかかわらず様々いいところもあります。ジオパークですとか、最近インバウンドで注目を浴びているみちのく潮風トレイルだとか、二戸地域では御所野遺跡が世界遺産になっていますし、漆生産の基盤を整える取組もさらに進んでいるという状況がございまして。そういった世界的に注目されているような資源、木質バイオマスとか風力発電だとか、再生可能エネルギーなども含めて、地域の活性化をどういうふうに進めていったらいいのかということを考えながら取組を進めているところでございますので、様々情報交換しながら進めていければいいのかなと考えております。

今日は、今年度の取組の基本的な内容を御説明した後に、皆さんから忌憚のない御意見をちょうだいしたいと思っております。前回までですと、大体一巡したぐらいで終わってしまったというような時間の制約もございましたが、今日は限られた人数ということもございまして、いろいろな面から御発言いただく機会があるのではないかなというふうに思っておりますので、これまで以上に様々御意見をちょうだいであればありがたいなと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【似内副局長】 以後は着座にて説明させていただきます。

本日御出席の構成員の皆様、また県の出席者につきましては、お手元の出席者名簿の配付をもって紹介とさせていただきます。

なお、本日は御都合により、桂川祥子様、熊谷盛様、高橋静子様、高浜菜奈子様、田村憲史様、中村敏昭様、新里周一様、廣内留美様、吹切秋則様が御欠席となっております。

議事に入る前に、配布資料の確認を行いたいと思います。次第、出席者名簿、座席表、県北広域振興圏地域運営懇談会設置要綱、令和6年度県北広域振興圏地域運営懇談会における構成員意見への対応状況というものをお配りしております。また、次第の下箱囲みに記載している通り、資料1から4、参考資料につきましては事前に送付させていただいております。皆様、資料の方はおそろいでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次第の3、議題の方に入らせていただきます。

設置要綱第4の規定により、懇談会は局長が主宰することと定められておりますので、以降、佐々木局長が司会進行を行います。

3 議事

【佐々木局長】 それではよろしくお願いいたします。まず進め方でございますが、議題の令和7年度県北広域振興局の主な取組等につきまして、事務局から、一括で全体の資料の説明をさせていただきたいと思っております。その後にお一人、まず、最初に三分ぐらい

でお話をちょうだいいたしまして、全員一通り御発言した後に、さらに御意見がある方に御発言いただくというような流れにしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは初めに、事務局から説明をお願いします。

【木登企画推進課長】 企画推進課長の木登でございます。県北広域振興局の令和7年度主な取組等について説明させていただきます。それではお手元の資料1の1ページ目を御覧願います。

左側上段が令和7年度における重点化の視点でございます。現状と課題を踏まえ、人口減少対策を中心にメリハリのある事業を展開することとし、市町村要望や少子化対策のワークショップで提案された取組などを踏まえた施策を推進して参ります。なお、施策の展開に当たりましては、小規模自治体に寄り添い、伴走型で取組を推進しております。次に右側を御覧ください。県北局の3つの重要課題を記載しております。1つ目は人口減少対策の強化・推進。2つ目は市町村への伴走支援。3つ目は、地域振興プランの推進となっております。

それでは2ページ目以降で局の特徴的な取組を中心に説明させていただきます。2ページ目を御覧願います。まず1の人口減少対策のうち社会減対策でございます。(1)のキャリア教育の充実としましては、ウに記載した、これまで久慈市単独の取組であった、中学生向けの「合同職業講演会キャリアオーケストラ」や、「社会体験 WEEK」について、久慈管内4市町村での広域的な展開を支援いたします。キャリアオーケストラについては、10月に久慈市のアンバーホールを会場に実施を予定、また社会体験 WEEK については11月に計2回管内企業に御協力をいただき実施する予定でございます。また(2)のとおり、若者の職場定着率を向上させるため、新規学卒者から3年目までの社員に対するセミナーや交流会を引き続き実施するとともに、こうした若手職員の意見や考え方を企業の経営層へフィードバックし、各企業の職場環境や待遇の改善につなげる取組を推進して参ります。「フレッシュャーズカフェ」については、7月1日に久慈市総合福祉センターを会場に、久慈・二戸管内の企業にお勤めの新規学卒者や先輩社会人の方々に御参加いただき、コミュニケーション能力向上セミナーや各企業の先輩社会人とのフリートークを通じた交流を図ったところでございます。「Re フレッシュャーズミーティング」につきましては、久慈・二戸管内を対象とし、10月に久慈市総合福祉センターで開催を予定しているところでございます。

次のページ3ページを御覧願います。(3)移住定住の取組につきましては、引き続き、県と市町村で構成するプロジェクトチームにおいて、広域的な施策を展開して参ります。具体的には、アに記載しました「広域移住体験ツアー」を継続して実施するとともに、それらの応募者は岩手県や移住への関心が高い方々であるということに着目しまして、ツアー終了後も継続的に情報発信をするなど、定員の都合上、残念ながらツアーの選考から

外れた方を含めた全ての応募者に対するフォローを行い、「北いわて」のファン形成に向けた取組を進めて参ります。今年度は10月に久慈地域、11月に二戸地域で開催を予定しております。次に(4)の地域おこし協力隊関係でございます。令和8年度末に多くの方々が任期を終了する見込みであることから、就任2年目から3年目の隊員を対象とした任期終了後の進路を見据えたフォローアップ研修等を充実させて参ります。フォローアップ研修は、10月に二戸地域でワークショップ等を実施する予定でございます。なお、例年開催しております管内の協力隊及びOB・OGによる活動報告会は2月～3月頃開催を予定しております。

次に4ページを御覧願います。(5)広域観光等の推進でございます。コロナの5類移行後、観光客の入込が回復基調にあることから、交流人口・関係人口の拡大に向けた広域観光等の取組を推進して参ります。具体的には、アに記載の北いわてアドベンチャーツーリズムの取組を継続し、ツアー商品造成に向けた実証や造成コースの試験販売を実施いたします。また、イとしまして、隣接する八戸圏域へのプロモーションを強化するとともに、ウの御所野遺跡の関係では、集客・周遊の促進を図るため、青森県や北海道で既に発行され、好評を博している「縄文カード」の北いわてバージョンを作成・配布を行い、コレクターの県内への誘客を図ります。加えて、エの昨年9月に北いわて・お城コンシェルジュに委嘱した気象キャスター久保井朝美さんと連携し、県北地域の歴史文化資源の情報発信を強化して参ります。

次に5ページを御覧願います。自然減対策でございます。(7)結婚支援につきましては、本庁の「岩手であい・幸せ応援事業」や市町村と連携し、若者のニーズに応じた多様な出会いの場の創出に向け、若者同士のインフォーマルな交流やネットワークづくりを後押しして参ります。

(8)に関しましては、今年3月に内閣府から県及び久慈市が、「地域働き方・職場改革に取り組む自治体」に選定されたところであり、市の取り組みを支援しつつ、局としてもウのとおり、男女間、世代間のアンコンシャス・バイアスの解消やDXの推進、企業の高等教育人材の確保に向けた経営層向けセミナー・研修会を開催して参ります。

次に6ページを御覧願います。市町村人口減少対策の支援でございます。昨年の久慈地域に引き続き、二戸地域で少子化対策支援事業が実施されておきまして、ワークショップを通じて市町村の課題・対策を検討しております。久慈地域におきましては、昨年度のワークショップの成果を活かし、局独自で継続することとし、地域の実情に応じた各市町村の施策を伴走型で支援して参ります。

次に7ページを御覧願います。ここからは地域振興プランの取り組みについてでございます。まず1つ目の柱でございます、中段の2、文化・スポーツ振興の取り組みとして、普代村の鶺鴒神楽に代表される地域の民俗芸能や文化芸術を子供たちが体験するイベント、八戸圏域との交流を促進させる子ども向けスポーツ交流教室を開催し、伝統芸能等の継承やスポーツの振興に取り組んで参ります。子ども向けスポーツ交流教室については

8月2日に二戸市総合スポーツセンターを会場に、八戸・久慈・二戸圏域の児童を対象として、岩手ビッグブルズ及び青森ワッツに御協力いただき、バスケットボール交流体験教室を開催する予定でございます。

次に8ページを御覧願います。「3 保健・医療」でございます。小規模町村支援の一環として、九戸村で実施している保健所、市町村、ボランティア等の連携による自殺対策の取り組みを軽米町にも拡大して実施して参ります。今年度は、男性の参加の働きかけを強化しているところでございます。

続きまして9ページを御覧願います。2つ目の柱でございます。こちらにつきましては、引き続き、河川改修や災害復旧事業等を推進するとともに、(2)の減災のためのソフト施策の推進として、令和6年8月の台風第5号において、長内川の洪水を未然に防げた滝ダムの事前放流の取り組みやダムの持つ洪水調整能力など、県のインフラ施設の効用を地域住民に周知するインフラ理解促進の取り組みを推進いたします。

次に10ページを御覧願います。3つ目の柱に関する取り組みでございます。「1 農業の振興」につきまして、令和7年度に本格的な栽培と販売が開始される「白金のひかり」の生産振興と認知度向上の取り組みを進めて参ります。今年度は、栽培志向者及び規模拡大志向者向け研修会などを開催し、認知度向上などに努めているところでございます。

次に、11ページを御覧願います。「(5) 環境と調和のとれた生産体制の構築」でございますが、令和6年度いわてグリーン農業アカデミーの修了生について、営農支援などを通じて、継続的に関与・フォローアップすることで、環境保全型農業の推進に取り組んで参ります。

次に、12ページをお願いいたします。「2 林業の振興」の取り組みでございます。「(2) 特用林産物の生産・流通体制の強化」についてですが、岩手木炭と原木しいたけの一体的な販売活動や持続的な漆資源の確保、生漆生産基盤の安定化に取り組んで参ります。

次に、13ページをお願いいたします。「3 水産業の振興」の取り組みでございます。漁業者の経営安定化策の1つである「海業」について、久慈管内4市町村にまたがる広域的な取り組みとして、引き続き漁業者の理解醸成を図るとともに、魅力的なコンテンツの発掘・磨き上げ・情報発信を強化して参ります。

次のページ14ページを御覧願います。「4 食産業及びものづくり産業の振興」につきましては、「(1) 次世代を担う地域産業人材の育成」として、新卒者の確保、高等教育人材の確保に向けて、高校生向けの業種理解説明会やキャリア講座等を実施するほか、(2)、(3)のとおり、引き続き食産業、ものづくりコーディネーターを配置し、事業者のニーズを把握しながら必要な支援を伴走型で実施して参ります。

次に、15ページを御覧願います。「5 観光振興」に掲げる取り組みでございます。こちらは先ほど交流人口・関係人口の拡大に向けた取り組みというところで御説明した内容の再掲となっております。県北地域には魅力的な観光資源が豊富にございますので、こうした情報をいかに「旅マエ・旅ナカ・旅アト」に届けるかという視点が非常に重要であ

と考えており、引き続き情報発信を強化しているところでございます。資料1については以上でございます。

続きまして、資料2を御説明させていただきます。資料2の令和6年度県北広域振興圏施策評価の概要についてでございます。こちらの資料の方は、現在集計中の項目が多く含まれておりますので、参考までに暫定値として、今回情報共有させていただくものでございます。確定版につきましては、次回、第2回の懇談会で改めて報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、最初に「Ⅰ 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域」です。これに関しましては、活動中の元気なコミュニティ特選団体数など、目標達成が見られる一方、公立文化施設における催事数や、スポーツ実施率などといった項目では目標に届いていないものもございます。

次に「Ⅱ 自然豊かで再生可能エネルギーを生かした災害に強い地域」につきましては、河川改修や道路整備については順調に推移している一方、ごみの排出量など、なお改善の余地があるものもございます。

最後に「Ⅲ 誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域」です。これに関しましては、木材生産額などで進展が見られる一方、製造品出荷額や高校卒業者の地元就職率については、今後も注視していく必要があると思われます。以上、多くの数字の方が集計中でありまして、今回は暫定での報告となりますが、次回の懇談会までに、集計精査を進めた上で、取り組み実績とその評価、今後の報告とあわせて、御報告させていただくという予定でございます。評価の内容については以上となっております。

資料3の岩手グラフの抜粋版では、世界に開かれたいわての地方創生予算を御紹介させていただいておりますし、参考資料として、昨年度の地域運営懇談会における構成員の皆様からいただいた意見への対応状況という資料を配付させていただきましたので、後ほど御覧いただければと思います。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

【佐々木局長】 それでは、構成員の皆さんから御発言をいただきたいと思います。今日は、県の重要施策であります人口減少対策、そのほか事務局が説明しました局の方針、重要課題、具体的な取り組み内容、こういった辺りについての所感、御意見、具体的な内容等について、御提言、御発言をいただければと思います。まず一通り御発言いただきたいと思いますので、お一人、3分ぐらいで発言いただきたいと思います。それではWebも含めて名簿順で御発言いただければと思いますので、最初に阿部さんからよろしくお願いいたします。

【阿部構成員】 皆さんこんにちは。住宅型有料老人ホームみんなの家を運営しております阿部です。どうぞよろしくお願いいたします。住宅型有料老人ホームのほかに、訪問介護サー

ビス、介護タクシー業務なども行っております。

この会議に何度か参加しておりますけれども、県の職員の皆様の多岐にわたる働きには毎回、驚きと感謝しかないなと思っております。このようなことが、どうか県民の皆さんに広く知って欲しいなと毎回思うところですが、わんこ広報室だけでは足りないかなと思っておりますので、どうぞもっとPRしていただいていいのではないかといつも思っております。

私は、高齢者の介護サービスという分野で働いておりますけれども、全業種共通だと思いますが、人材確保には既に不安を抱いているというような状況であります。ただ、年齢の高いスタッフも多く活躍しておりまして、それはこの地域の強みではないかと思っております。御自分のお父さんお母さんを介護した経験を生かして、なお、働いていただいているというのは大変ありがたいことだなと思っております。人口減少を抱えている地域ならではの強み、ある意味強みではないのかなと思いますので、ぜひその辺りにもっと光を当てていただいて、そういった方々の質の向上ですとかそういった部分にも力を入れていって、地域の特色というのを出していければいいのではないかと思っております。私の仕事というのは全国共通のサービスでありますので、他の事業所の皆さんと違って、地域の特色というのを出しにくい業種ではあります。だからこそ若い人材や質の高い人材の確保、魅力的な事業所を作っていくためには、逆に地域の特色を出していくことも必要で、今御紹介いただいたようなことを生かしながら、また他業種とも積極的に連携をしていながら、地域の特色を生かして、いかに魅力的な事業所を作っていくかというところが、最終的には人材の確保などに繋がるのではないかなと思っております。皆さん、日々の業務に追われてなかなかそういった未来のことに手をつけるのは難しいとは思いますが、経営の助言や人材確保など、そういった部分の補助については、県からもありがたいことに声をかけていただいている部分も多いです。経営の部分で、いかに事業所が継続してやっていけるかというところについて、研修や御助言をいただけるような場がもっとあればありがたいなと思っております。

女性活躍の部分で局長さんからお話がありましたけれども、活躍しているかどうかは別として、私は女性としてなかなか大変だなというのを、実際働きながら子育てをしながら思っているところはあります。解決策があればいいなと思っておりますので、身をもって解決したいと思いますし、次の世代にバトンタッチしていければいいなと思う課題ではありますので、そういったことが話し合える場が、もっともっとあればいいかなと思っております。

【佐々木局長】 ありがとうございます。高齢者を生かすみたいな話もありました。高齢化が進んでいますが、今の高齢者と呼ばれる方々は、元気な人たちがたくさんいるので、そういった今いる人たちをどうやって生かすかというのは非常に重要な視点だろうと思っています。農業分野でも、昨年、県政懇談会に来ていただいた野田村の新山さん。あの

方は、地域に移住してこられて、農家をやめようかと思っているお年寄りの方を積極的に採用して作業していただいているという素晴らしい取り組みをされていて、昨年の岩手日報の一面にも掲載されました。そういった取り組みは大事で、阿部さんがおっしゃったように地域の強みとして、せっかく元気な方が多分たくさんいると思うので、うまく活用していくというのは非常にいい視点だろうと思います。それから、久慈地域の自殺率が高いとか、脳血管疾患や心疾患の割合が高い状況があります。食生活・運動習慣と思われるような状況が実感としてあります。できるだけ健康を保っていくため、他の地域から少し遅れているようなところを地域の皆さんと一緒に改善していく必要があるのかもしれないなというところは、我々としても考えているところです。今回の委員の皆さんの中にも会社で取り組まれているところもあると思いますけれども、そういった組織の従業員を大事にいただける取り組みというのを進めていくことによって、今いる人たちが生き生きと働けるという状況がどんどんできてくるのかなと思っております。

それから女性活躍に関して、女性の皆さんに本当に活躍をして欲しいという思いでやっています、アンコンシャス・バイアスという言い方をしましたけれども、どうしても、女性は家にいて家事をやっていけばいいというような意識がかなり高い。いろいろな商業団体の会合に行っても結構高齢の男性ばかりです。そこに若い男性、女性の経営者なり、元気のある方が地域を考える立場で、そういったところに入り込んでいくという姿が理想だと思います。なかなかそういうところに結びつかないような意識があったりして、地域に若い人たちが戻ってこない。都会にはいろいろなところで活躍できる場があることもありますので、そういった活躍できるところを作っていくというのはいいと思います。介護の仕事とか、若い人たちも含めて、いろいろな方々が活躍できるような仕組みが、たくさんできている気がいたしますので、そういった状況を我々も後押ししていく必要があるかなと思っています。保健福祉環境部長がいますので、コメントをお願いします。

【浅沼保健福祉環境部長】 保健福祉環境部長の浅沼と申します。よろしくお願いします。今お話ありましたとおり、確かに介護サービスの場合、公定価格といいますか、決まった報酬で運営しなければならない。それから、実施していただいている訪問介護も報酬の切り下げもあったり、なかなか難しい状況があらうかと思います。それぞれの現場で苦労いただいていると思いますが、県としてもそうした介護現場での経営の問題とか運営の問題への相談・支援をワンストップで行うためということで、もう御承知かもしれませんが、いわて介護現場サポートセンターという機関を今年の5月に開所したところでございます。そこでは、いわゆる介護サービスの負担の軽減、質の向上を図るための様々な相談とか、或いは、ITや介護テクノロジーの導入などについても様々御相談に乗らせていただいておりますので、ぜひ、そういったところも活用していただければと思いますし、県としてもこういった取り組みをしながら、現場で活動している事業者の皆さんが運営をしつかりできるように取り組んでいきたいと考えております。

【佐々木局長】 まだまだ御意見あるかと思いますが、何巡かできると思いますので、またよろしく願いいたします。次は岩本さん、よろしくお願いします。

【岩本構成員】 皆さんお疲れ様です。洋野町でワイヤーハーネス電子部品を製造させていただいている岩本電機の岩本と申します。今日は暑い中本当にお疲れ様です。私は昨年からの会に参加させていただきまして、いろいろとお話をさせていただく中で、今日私が感動したのが、こちらの構成員の意見への対応状況。これがフィードバックされているのが本当に感動しました。昨年の会議で、例えば人口減少というのは、自然に減ってしまうのはしょうがないですけれども、増えているというか、維持しているところはあるはずだと。それは市として、町としてはできないんですかということ投げかけさせていただいて、例えば、視察に行くとか視察に行くのが難しいのであれば、講師の方を呼んで研修をするなどの発言をさせていただいたんですけども。それが、こちらの方にもフィードバックされていますし、例えば、結婚支援の取り組みとして、どのぐらいの数をやって、どのぐらい成功しているのかということのも意見からの対応状況というものを明確に見られているので、非常にありがたいなと、しっかり意見が反映されているんだなということがわかったのでうれしく思いました。それから、こちらの人口減少のお話になりますけども、やっている内容というのはそのとおりだと思いますし、何かを批判するだとかということはないですけども、やはり女性が住みやすい、社会活躍できる環境と子育てしやすい環境というのがキーワードになるのではないかなと思います。先ほど局長さんもおっしゃられましたけども、なかなか若い女性経営者の方と触れ合うというか、会議も少ないですし。思い切った施策だとか、成功事例を真似るだとか、どこかの地域ではお子さん2人出産したらに100万円給付するだとか、医療費の無償化だとか、この辺もどこまでというのはなかなか難しいと思うところですけども、推進していけばいいと思います。この久慈管内もそうですけども、自分のところを分析する。私も会社を経営しているので、会社の中身の数字を把握するっていうのは、すごく当たり前で分析する。お隣の釜石市、同じぐらいの人口でどのようなことをやっているのだろうか。私は製造業ですので、釜石市にはSMCさんという大きい会社がありますけども、久慈市に呼ぶとかではないですけども、そういったところの産業も発展されているのかなとか。いいところは真似したり、悪いところは改善をしなければいけないのかなと思ったところでございます。

それから女性がやっぱり活躍するにあたって、以前、クローズアップ現代を見たら、若者が楽しめる場所や施設が少ないこと、一番大きいのがやりたい仕事ややりがいのある仕事が地方では見つからないということが載っておりました。私も会社を経営しているので、会社を知っていただくという施策は、そのとおり継続してやっていただきたいなと思っています。

私が住む洋野町では、息子が通っている小学校の新入生は4月から1人です。2年生は3人です。複式学級で、まさに人口減少というのを目の当たりにしているところでござい

ます。人が少なくなるというのは、しょうがないところもあるとは思いますが、企業としては、この資料1にいろいろまとめていただいた中では、製造業への支援をもう少し手厚くしていただければありがたいなと思います。私も洋野町民ですから、ふるさとを愛して、海も愛しておりますけれども、製造業の電子部品関係とか、思い切った施策というのを行っていただければと思います。

最後になりますけれども、私たちは新規のお取引をするために工場監査というのが必ずあります。その中で、例えば売り上げや利益などの項目があるんですけども、直近の工場監査で初めて「後継者はいますか」という欄が設けてありました。私どもは東京のメーカーさんと取引しておりますけれども、やはり後継者が不足しているという状況で、長く部品を供給してくださいという意味を込めてですけども、そういうふうな欄がありましたので、ぜひ後継者の施策があればいいかなと思っています。

【佐々木局長】 まさに地域の一番大きな課題のところ方に対しての御意見をちょうだいしたと思っております。女性活躍については、何度かこの場以外でもお会いをして意見交換をさせていただいたところがございますし、そういった面でも非常にたくさん御意見いただいているのではないかなと思ったところがございます。働き方改革をしっかりとやっていくというのは非常に大きな視点としてありまして、それが男性でも女性でも変わりのない働き方改革を進めていくことだと思います。家事を平等にやること、女性が担わなくてはいけないことを男性が担うことによって、お互いにサポートしていく。出産をした後も男性がサポートをすることによって、大分ギャップが埋められると思っているところです。ただ、そこが一番の企業のリスクとして考えられがちだったものは、それはリスクではないのだと、男性も育児休業を取ることによって、1ヶ月2ヶ月当たり前にかけるのだという前提でもって、人を回すということ。こういうことを考えていかないといけないというような時代になっていると思います。そういった意識改革が非常に大事ななと思っていて、そういった仕組みの改善に地域を挙げて取り組んでいかなければいけないだろうと思っています。

それから若者の活躍できる場所という話がありました。今の働き方が変わってきている中で、リモートでも仕事ができる、世界を相手にして仕事ができるという状況がたくさん出てきています。なかなか製造業ということになりますと、そうはいかない部分も多いかとは思いますが、若者が楽しめるという話がありましたけど、先日、県政懇談会に来ていただいた、久慈市山根でお母さんの喫茶店を手伝いながらダンスを教えている若い20歳ぐらいの女性がいます。ニューヨークに行ってダンスを勉強して、久慈市や野田村で90人ぐらいの子供にダンスを教えている方がいらっしゃいます。その方が知事の前で話をしたことが印象的で、『「久慈だからできないことはない」ということを私から発信したい』とおっしゃっていました。今は時代的に、久慈が首都圏から遠いということではなくて、ここに住んでもいろいろなことができる実例として、我々が一生懸命発信して

いくことで、多くの方々にいろいろなことができるのだと希望を与えることが大事だと思いました。そういうやり方をみんなで考えていくというのが大事かなと感じます。各企業レベル、各事業所レベル、我々も含めてそういったことを作っていけばいいのかなと思います。

それから人口減少対策については、今どうしても地域の担い手確保ということで、高校を卒業した人たちの取り合いみたいになっていて、それが今 10 年前と比べて、高校卒業生が半分、しかも、地元の就職率が大体 50%ぐらいというような状況なものですから、どうしても縮小している枠を取り合っているような状況があります。ただ一方で、進学率が上がっているので、大卒の人たちが自分の自己実現をできるような事業者なり、会社経営なり、産業経営というのを作っていけないと、地域の高等人材を送り出すだけの地域になってしまうという話をしています。例えば、農業でも大学を卒業したからこそできる自分の農業のやり方を見つたり、改良を加えてやってみるフィールドがあるとか、そういったことをきちんと地域のモデルとして作っていくみたいなところを考えていかないと、どうしても縮小する一方になってしまうと思っています。そういうところに、いろいろな人が気付いて、大卒の人が活躍できる、働ける場所みたいなものをどんどん作っていく。それが会社で考えると、DXであったり、いろいろなところとの通信技術、世界とのやりとりとか、研究開発であったり、組織の改革であったりというところに、大卒人材の活躍の場が広げられていけるのではないかと思いますので、そういったところをいろいろ御検討いただければいいかなと思っています。また引き続きお願いします。

続いて、田家さんお願いします。

【田家構成員】 私からは先ほども話題に出たジェンダーギャップとかの話ですけれども、今日参加されている岩手県の皆さんのほとんどが男性ですよ。推進しようと思うなら県庁でも女性の割合を高くするとか、まずそういう点を1つやっていただくと、各地でもそういうことが動いてくるのかなと思います。そういう状況でジェンダーギャップを改善しますと言っても言葉に重みがないというところもあります。あと、本日の構成員について私も含めて、あと1名女性がいると半数が女性になるのかなと思います。男性と女性の社会での何か立場など、違いがあるなどというのは、男性自身としても感じますけれども、すべてが何か不平等ではなくて、女性特有の意見というのも結構、会議の場では採用されたりしますけれども、逆に女性だけの会議になると、男性特有の意見が採用されるわけではないと思うので、バランスよく女性も配置していただいて、活躍できるんだよというを見せていただければ、自然とこういうのは増えてくるのかなと思います。今日参加されている中村構成員の活躍も素晴らしくて、そういう方がいると本当に我々も刺激になりますし、阿部構成員は素晴らしい意見をお持ちですので、そういう方々がもっと表に出ていただければいいのではないかなと思うところです。

また、令和6年度の運営懇談会における構成員意見の対応について、県北の観光の目標

達成が半数に達していなかったもので、広域でやる方がいいんじゃないかという意見を言わせていただきました。北いわてアドベンチャーツーリズムをやっているとのことでしたが、その事業の実施状況の資料がなかったもので、実績もお聞きしたいなと思います。県北地域に来るときに二戸駅がハブとなる場所でもありますので、そこに岩手県の県北の魅力を発信するブースなどを設置することはできないかなと思っています。二戸駅に到着して、地域の情報を駅員さんに聞いても分からない方が多いということも聞いています。観光客が困っているという事情を結構聞きますので、各市町村共同してできるのではないかなと思いますので、それを是非とも県が発信して旗を振っていただけると、地元民としては、本当に皆さん一丸となって、観光客が来たらおもてなしするとか、そういう意識醸成につながるのではないかなと思うところです。

【佐々木局長】 田家さんありがとうございました。ジェンダーギャップは、本当にそのとおりだと思います。県の女性幹部職員の登用については、引き続き取り組むこととしておりますし、育児休業については、男性職員のほぼ100%が育児休業を取得しているとのデータが、先日庁内の会議で示されまして、それについては我々の方からもしっかりPRしていく必要があるかなと思ったところです。女性の意見、男性の意見、様々あると思います。男性女性を意識せず、いろいろな多様な考え方を聞いて吸収して噛み砕いて反映させるというダイバーシティの考え方になるかと思いますが、そういったところについて我々も研修で学ぶ機会が最近非常に多くなっています。どんな意見であっても、何を意図しているのか、どういう方向に向いているのかということをしっかり聞いて、どのように反映できるかというところに、ブレイクダウンしていくというような手法が大事だと思っています。

それから地域での情報発信について、おっしゃるとおり、なかなかうまくできてない状況です。県北広域振興局もまさにそういう状況がありました。今、情報発信をととても大事にしようと思っておりまして、昨年からXやInstagramを始めたところです。県の仕組みとして、情報発信の手段が全体としていろいろ整っているのも、県北の状況を東京事務所だったり、県庁だったり、はたまた知事だったりを通じて発信していくのが有効なのかなと思っておりまして、今、急速に充実させつつあるというような状況でございます。情報発信については、いろいろな意見を取り入れながら取り組んでいきたいと思っています。

【熊谷二戸地域振興センター所長】 二戸地域振興センターの熊谷でございます。いつもお世話になっております。私からは、アドベンチャーツーリズムの取り組み状況について説明をさせていただきます。昨年度から取り組んでいる事業ではありますが、昨年度は二戸地域のコンテンツの磨き上げをやって参りました。今年度は、久慈地域のコンテンツの磨き上げ、それから二戸地域で磨き上げたコンテンツを試験販売につなげていくということと取り組んでおり、今のところ5本程度を試験販売につなげていくということにして

おります。その中に御所野も当然入ってきますし、或いは、漆というテーマもございます。

それから二戸駅のブース設置について、昨年度の第2回地域運営懇談会のときにもお話いただいたかと思いますが、空きスペースがあるというのは前から聞いているところでございます、いろいろな方が何か活用できないかというお話をされているのは伺っていました。二戸市観光ツーリズム協会の中田会長からも、観光案内所みたいなものを設置したらいいのではないかというお話は、いろいろな場面で聞いておりましたが、今年度の8月のお盆あたりに二戸市が臨時になりますけれども、そこに観光案内所のようなものを設置すると伺っております。

二戸地域広域であそこに何かを設置するとなると、二戸市観光ツーリズム協会は二戸市が人もお金も重要な位置を占めておりますが、二戸市長の議会答弁を聞きますと、二戸市観光ツーリズム協会の窓口は、少し奥まったところになりますけれども、現在ある場所で十分と答弁されていました。

県が声を上げるのができないわけではないですけれども、持続可能なサービスの提供をするという意味から考えると、まずは、地元でまとまった上で、他の町村さんも巻き込んでいくということをして、そこに県も何かお手伝いができるかということだと思えます。

中田会長から直接お話は聞いておりますし、その上で、藤原市長の思いもございますので、そういったところは我々も注視していきたいと考えております。

【佐々木局長】 また引き続きよろしくお願いします。

続いて、中村さんお願いできますでしょうか。

【中村構成員】 九戸村の有限会社中村一郎商店の中村と申します。よろしくお願いいたしますします。私からは、様々皆様からの意見をお聞きしていたので、重ならないところで、何かお話しさせていただきたいと思っております。資料1を見させていただいて、非常に取り組まれていること素晴らしいなと思っておりました。特に集客誘致とか様々なツアーなどの取り組みが素晴らしいなと思っていたところですが、1つ気になったところで言いますと、冬場のツアーというか集客誘致の事業が少ないのかなと思っております。夏場は観光シーズンということもあって、この地域はお客様を呼ぶのは意外と組みやすいかと思いますが、夏場と冬場の集客と売り上げの落差があります。私は、ジェラテリアなかいちを運営しており、道の駅の収益にも直結しますが、本当に冬場の売り上げの落ち込み方が半端じゃない。こればかりは当社が幾ら頑張ってもお客さんを呼び込めることが難しい。地域とか行政、県北広域振興局を巻き込んで、広域的なイベントとか企画というものを打っていただけないかなと思っているのが1点でございます。

市町村人口減少対策の支援で、市町村ごとの課題を検討するワークショップを開催したと書かれています。これすごく大事なことで素晴らしいと思っております。全体的にど

この地域も人口減少と活力は落ちていますが、要因はそれぞれ違うということで、こういうワークショップを開催することで、本当の問題点の掘り起こし、そして、そこに住む人たちの危機感の共有といったものがされるので、これは試験的に久慈地域がなさってらっしゃるのかなと思いますが、これを全市町村にぜひ進めていただいて、九戸村自体も本当にやらなければならないと思っているところであったので、そういったものが広がっていくとさらによりよい解決策、具体的な現実的な解決策が見出せるのではないかなと思いました。

それからアンコンシャス・バイアスの件、皆さんもおっしゃっていましたが、私も様々な役を任される場所が多いですけれども、女性の方はあちこちの役員を兼ねているような形で、皆さん役職の押し付け合いではないかなと思うぐらいに、同じような人たちが参加されていいいますが、これはよくないなと思っております。私は教育委員をさせていただいたことがあります、規約に男女比をきちんと明記してくださいと言ってきました。男女比5対5が難しいのであれば6対4とかでもいいですが、強制的に規約自体に男女比を設けることによって、その構成を強制的に作っていく。それが一番かなと思います。どうしても、女性自身も女性自身のアンコンシャス・バイアスで、そういう場所に行って発言したくないとか、目立ちたくないとか、人の上に立ちたくないとかという、そういう意識がどこかにあるので、そういう規約になっているのでお願いしますというような環境づくりをして、女性を巻き込んでいくという環境設定も必要ではないかなと思いました。

子育て環境・子育て支援に関しては、九戸村では今年小学校が1つに統合になりました。我々女性から見た子育て環境が良くなったかという、決してそういうわけではなくて、人口減少に伴って、企業の撤退も多くなりましたので、習い事の少なさ、それから小児科医もなければ歯医者もないという状況が続いています。こういった必要最低限のインフラや環境というものを見て、女性というものは子育てにつなげていくものなので、どこの地域であっても、必要最低限ここまでは絶対ないとだめだよねというところをはっきりと強化していくべきではないかなと思いました。

以前、知事にも言ったことがあります、イクボス宣言のときに、率先して上司は育児をするために早く帰ってくださいと促すというのがあったと思いますが、実際に早く帰ったとしても、その帰ったお父さんたちが家の中で手伝うかどうかということそこら辺が定かじゃない。当社の若い男性社員も、今年2人目が産まれましたが、家事ができない、料理もできない、育児も最低限しかできないということで、育児休暇を取るよりも働いた方がいいですとのことで、育児休暇を取らずに働いています。こういったことが続くと、女性の負担はいつまでたっても減らないので、私が申し上げたいのは、パートナーが妊娠をしたら、パートナーの男性は産まれるまでの間にお父さん教育を受けなければならないと思っています。これは海外では、普通にあることです。産まれてくるまでの心の持ち方だけではなく、技術、生活能力のスキルとか家事スキルが高ければ高いほど、出産率も上がっていくと私は思っておりますので、ここは岩手県が率先して、父親教育を導入して、

女性をこうやって実際に支えていく県だということを示す施策があってもよろしいのではないかなと思っております。

【佐々木局長】 ありがとうございます。たくさん御意見いただきありがとうございました。冬場の集客の話については産業振興室長から、父親教育については保健福祉環境部長からお話します。ワークショップについては、全部の市町村が集まって、それぞれの市町村の違いがどこにあるのか、住んでいるだけでは分からないけれども、他の市町村の意見を聞きながら、自分のところはどんな特徴があるのか、どういうことが原因で人口減少が起こっているのかというところの見つめ直しからスタートしております。そういったことを踏まえた解決策を今後の施策に生かしていこうという地域の住民というよりは役場の職員が、施策を進めていくにはどういったことが必要なのかという視点で進められています。今後、取り組みを検討していきますが、それがうまくいって、次の地域運営懇談会で少しでもお話ができる状況になっていればいいかなと思いました。

アンコンシャス・バイアスの話や役の押し付け合いみたいな話がありました。それはおっしゃるとおりだと思っていますが、以前何かのセミナーで聞いた話ですけれども、昔、人口が多かったときに、様々な枠組みで組織を作ってしまったがゆえに、人口減少に対応した姿に変わりきれてない。その組織を維持するためだけに役だけ残して、二枚看板三枚看板で役だけ押し付けられるというような形になっているが実情です。人口の状態に見合った組織にするという見直しがかかるような状態にするというのが必要な話だと思います。先ほど会社の話で、担い手確保で大卒を採用するという話をしましたけれども、まさに同じような話が地域コミュニティの中でも生じてきていて、若い人たちであったり、女性だったり、アンコンシャス・バイアスにとらわれない意見を言えるような組織を、これからは長い目で見たときには、作っていかなければいけないのではないかなという思いを持っています。そういうことを我々が少しずつ変えていく、または行政がそういったものをあまり作りすぎないというのも大事なかなと個人的に思っています。

【鈴木産業振興室長】 産業振興室長の鈴木と申します。よろしくお願いします。

私の方から冬場の集客のことについて、お話をさせていただきたいと思います。県北地域或いは沿岸も含めて冬場の集客に大変苦勞しているという話は、これまでも宿泊施設の方々との意見交換などで伺っているところです。これは県北広域振興局だけでなく、県庁の観光・プロモーション室も含めて、重要な課題だということは以前から認識しているところであります。現状としましては、冬場に集客すべく市町村ごとに、非常に頑張っているというところがありまして、それを、県のいろいろな手段を使ってPRする、或いはJRのキャンペーン期間にあうようであれば、それもコンテンツとして発信していただけるように連携していくというような形で今まで発信をしているところではありますが、なかなかそれでも足りないというところで、今のような御意見になっていると認識して

います。さらに何かをというところは、常に頭を悩ましているところでありますけども、やはり1回2回ではなくて、持続的な取り組みにしていかなければいけないということ、或いは県が行うとすれば広域的な部分での効果、そういうところを考えていかなければいけないというところで、なかなか解決策が見いだせていないところで、県としても悩んでおります。

【浅沼保健福祉環境部長】 保健福祉環境部長の浅沼でございます。私の方から子育て家庭の支援の対応についてお話させていただきます。主に市町村での取り組みということになりますが、ベースとしては母子保健の流れの取り組みとして、出産前から乳児期までを対象に、両親教室という形でそれぞれの市町村で取り組みをしていただいております。以前は母親教室とおっしゃったようですが、今は母親という限定した言い方ではなくて両親を対象にした教室ということで、父親になる方にも来ていただいて、子育てについていろいろ学んでいただくということでございます。その中で家事の問題など、どこまで触れているのかは、私も承知しておりませんが、やはり子育てがどのようなものなのか、どれだけ大変なものなのかというのをそれぞれが意識することで、両親で子供を育てていくということを認識して、意識してもらえるような取り組みになっているのではないかなと思いますので、そういった視点も踏まえながら、これからもこういった取り組みを進めていければと思っております。

【佐々木局長】 中村さんありがとうございました。両親教育と名前が変わっても、出てくるのは母親だけではないということにしていかなければいけないなと思いますし、冬場の集客については、悩ましいところがありますので、皆さんからいろいろと御意見ちょうだいできればいいかなと思いました。引き続きよろしくお願いします。

古舘さんお願いします。

【古舘構成員】 皆さんこんにちは。二戸から来ました十文字チキンカンパニーの古舘と申します。私は2期目で、今回4年目になります。先ほど阿部さんからもありましたけど、ものすごい多岐にわたった細かい施策をやられていて、一般企業からは考えられない範囲の広さの事業に関してやられている。まだまだ広報が足りていないと思われるので、知ってもらう方法があってもいいのではないかと、4年目になって強く感じています。

本題ですが、まず人口減少対策と、私の担当の再生可能エネルギーについて意見させていただきたいなと思います。まず人口減少対策ですが、我々も人材確保という意味から、見える人口減少に対しての対策ということになりますが、先ほど局長もお話しされたとおり、非常に少ない人数のパイを取り合っている状況は、この地域の会社の現状になっています。とにかく人材不足。充足しているというところは、ほとんどないのではないかと感じています。当社でも、何年か前にお話しましたが、人事部という人を採用する部署は、

特に優秀な人材を専属で配属して、人員確保しています。それで、やっと何とか頭数、あとは能力的なところを確保しているという状況でございます。小さな会社の社長さんが1人で一生懸命頑張っているというところは、本当に大変な時代ではないかなとすごく感じます。その中で我々の会社は、できればUターンではなくて、Iターンなど学卒は地元ではない人も引っ張ってきたいぐらいの勢いで今やっています。意外とUターンが少ないという印象です。地元のことを知っている人が帰ってこないです。先ほど局長がおっしゃったように、高卒から頭数を確保するというのはもう無理な時代になっています。ですので、1回地元を出た学卒をしっかり戻してくるということにかかってくるのではないかなと感じています。当然、魅力がなければ戻ってきませんし、あとは今の若い人たちがどのようなことに、共感を受けて戻ってくるか。もう我々の子供の世代は、言っている意味が分からないことが多いです。そういった若い世代の意見をもう少し聞ける機会があってもいいのかなと思います。今、社内でも人事部の人間は何で戻ってきたのかという聞き取りをして、1つのヒントになるのかなと考えています。一世代離れると、外国人より意見が合わないと言われるぐらいの時代ですので、もう宇宙人ぐらいの感覚で接していかないと理解できないと思っております。社内の方では、3年前から子どもが小中高に入学すると3万円支給するというシステムがあります。夫婦で考えると、1人小学校に入学すると6万円になります。小中高で3回チャンスがあることになります。そういった小さなことだと思いますが、ただそういったところから、始めていかなければいけないのかなと思いますし、あとは、できることから手をつけていかなければ、人材確保できなくなっていくのではないかと感じます。そういった目線では、県の方々が一生懸命やられている、本当に地道な動きというのは、しっかり取り組んで欲しい、継続して欲しいと思いますし、全く効果がなかったらすぐ方向転換して、別の作戦を考えていくということをやっているだけであればと思います。あと新聞で地域おこし協力隊の記事をよく見ます。すごくいいシステムだなと思って見ていますが、調べたら岩手県では、この地域おこし協力隊の採用者数がすごく多いです。その方々の、定着支援をやられているということなので、どのような中身なのかなというのに興味があります。また、実際定着されている定住率は、どのぐらいなのかなというのをお聞きしたいと思っております。

次に、資料2の3ページに、「再生可能エネルギーによる発電量」の目標値と現状・実績というところで、すでに計画目標値を大きく超えて達成されていますが、これは電気に関してだけですが、今後何を目標にどうやっていくのかなというところをお聞きしたい。また、最初に電気を目標にされたと思いますが、電気以外の熱関係もこれから需要があると感じていますので、これから何か取り組むことがあるのであれば、教えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

【佐々木局長】 ありがとうございます。先ほど私が話したことに賛同いただきまして、ありがとうございます。私もこの地域に来ていますが、地域に住んでいる人たちの親世

代である地域の事業者の方々、農林水産業を経営されている方、地域で頑張っている方、地域で頑張っている方が地域や子供たちに対して、どういう意識を持っているか、何を言っているかという、地域には働くところがないから、あなたたちは進学校に行って、大学に行って立派な会社に就職しなさいというようなことをおっしゃっています。でも、実はその働く場所が実際にはたくさんあります。世界を相手にして頑張っている方、企業もたくさんありますし、地域のモンスター企業のような、十文字さんもその1つと思いますが、そういった企業があるにもかかわらず、地域の人たちに知られていない。大学で高等教育を受けても、そういう方が活躍できる、働く場所があるということが、親世代に認知されていないというのが一番大きいのではないかなと思っています。意識改革という大変な作業だと思いますが、そこのところを少しでも壊していかないと、地域の姿を変えていけないのではないかなという危機感を持っています。先ほどの会社経営の話もそうですが、会社を営んでいる人たちの意識改革が必要で、大学を出た方に、とんでもない夢を実現するための場があるということを、どうやって訴えていくのかというのが大事だと思います。そういった企業向けのセミナーであったり、高校については進学校向けのセミナーやキャリア教育もやろうとしています。発信力が上手じゃないというのは、皆さん、前にもおっしゃったとおりだと思いますけれど、そういうことを地域の中でも知っていく取り組みが必要だなと思いますし、Iターンが確保できるのであれば、生活圏がどんどん広域化している。今、終身雇用が成り立たないような状況があったり、どこに住んでもいいみたいな人たちがたくさんいるわけなので、そんな人も含めて採用活動、担い手確保を進めていくことも必要なのかなと思います。先ほど宇宙人みたいなお話がありました。我々も若い頃は「今どきの若い者は」と言われたはずですが。そういう人たちが30年40年たつと経営の一線に立って働いているという状況を理解して、こういう人たちが将来を作っていく人たちだという感覚でもって、この人たちが生きているような企業経営だったり、地域経営というのを我々自身が考えていく必要があるのではないかなということは常々思っています。我々の価値観ではなくて、彼らの価値観がどこに向いているのかということ、しっかり把握されようとしているのは非常に大事なことはないかなと思います。宇宙人なりの経営というのはあるはずなので、そういったことを目指していく必要があるかなと思っています。

地域おこし協力隊と再生可能エネルギーについては、企画推進課長より説明します。

【木登企画推進課長】 企画推進課長の木登でございます。まず、地域おこし協力隊に対する支援ですけれども、今年予定しているのは、任期終了後の支援でございます。ロードマップの早期作成というものを支援するということで、2年目の隊員を対象としたフォローアップ研修を予定しております。また、地域おこし協力隊に対する地域の理解促進というものが必要だと考えておりますので、この地域での孤立化を防止するために、市町村と連携して活動報告会というものを昨年に引き続き実施する予定でございます。地域おこ

し協力隊の定住率というところでございます。全国的には大体 68%ぐらいと言われておりまして、先日報道されておりましたが、岩手県での定住率が 62%程度と言われているところです。その中で、県北地域についてはどうかというところを、先日市町村担当者の方からいろいろ聞き取りをしたところで、それによると大体 60%ぐらいという数字が見えてきているところでございます。

次に再生可能エネルギーでございます。現状は電気という形で指標を載せているところでございます。この再生可能エネルギーというものは、雇用の創出とか、地域産業の多角化ということに地域経済への大きな貢献があるというところと、CO₂の削減というもので、地球温暖化対策や環境保護という観点からも重要なものであると考えているところでございます。電気以外の熱というところにつきましては、現状、具体的な取り組みを局としてもしているものではございませんが、次期アクションプランを考えていく中で、こういった皆様からの意見をいただいいただきながら、今後どうあるべきなのかというところも、県庁の担当課ともいろいろ相談しながら、取り組みを検討していきたいと考えています。

【佐々木局長】 目標値については、来年は計画改定の1年前になりますので、指標の方向性が良いのか、悪いのかという検証を来年行いますので、今の御発言については我々も検討の中で、考えさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

お待たせしました松川さんお願いします。

【松川構成員】 皆さんこんにちは。野田村で株式会社 Dai0Jou という会社を経営しております松川です。冒頭から局長の言葉の中に、特に思考だったり、意識の改革なんだという言葉がたくさん出てくることにすごく感動して、うれしくなっております。意識の改革を大人になってからやるというと、大変なことだなというのを私自身が看護師の世界から起業家の世界に入ったというだけで、もうまるで考え方が違って、大変だけど面白いなと思っています。また、小さいときからの体験を通じて、考え方を自分が実現していける理想の社会をどうしたらいいのかなというのが、教育の中に入っていければ、大人になったときに、どこでもどんなことも自分のやりたいことはこうやって作り上げていくという、そういう意識、考え方や思考ができていくのはいいのではないかと思います。小さいときの体験が大人になったときに、あのときあんな体験をして感動した、久慈地域いいなと思ったから、大人になってそれをまた再現して幸せにしていこうと思って、私自身思っているわけで、何より私の息子が同じ会社に入って、自分もチャレンジしたいと働き始めたというようなことがあるんですけど、そういうのを少し離れて俯瞰してみたときに、やっぱり小さいときからの親世代がどう感じて生きているのかというのが本当に大切な未来の子供たちに伝わっているし、伝えようとしなくても伝わってしまっているというところがあるなと思います。体験を通じて大人が大切なものを思い出すこと

と、自分の幼いときにどうなりたかったというようなことが、大人になって実現できているかなという大人自身も幸せに暮らしているのかなというところを、一緒に考えていけたらいいなと考えながら聞いていました。

資料2の②の公立文化施設における催事数やスポーツ実施率が低いと思いました。なぜ低いのでしょうか。この地域には素晴らしいものがたくさんある。野田村のアジア民俗造形館やマリンローズパークがあったり、文化施設がたくさんあるのに催事が少ないのは、なぜでしょうか。私の中で考えたのが、沿岸のジオパークやみちのく潮風トレイルなどで文化・体験することを地元の人たちも絡めながら、事業を考えるのもいいと感じます。野田村の海や景色を映像にして、「道の駅のだ」で映像を流している。地元の人たちもほれ込んでいるものを持って、県内だけでなく他県にも自分たちの地域をPRしていければいいかなと思います。

また、県の「よろず支援拠点」という制度を活用させていただいています。相談を受けてくださる方々のエネルギーもすばらしく、大変勉強になるし、その相談員の方も男性です。看護の中だと女性が当たり前で働きやすかったし、いろいろなことが言えた。経営者になったら、周りはほとんどが男性だった。最初の話に戻りますが、意識とか考え方、思考というのは自分が身を置く場所によって変わるので、女性が働きやすくなっていくことを期待していますが、男性はどのように考えているのでしょうか。男性は今の職場で自分の本領を発揮して稼げる、得意なところで頑張っているのかなと疑問に感じることもあります。いいところも、補えるところもお互いにあるのに、女性活躍と言われている。私たち、かなり活躍している自負はあります。何も言われなくても洗濯をするし掃除をするし、環境整備に育児に介護、いろいろなことをやっている。そこに価値を感じさせてもらえたらいいのだと思います。女性として、本人がやりがいを持てたり、そういうところを分かりあうというような意識の問題が大きいと思います。この先、そういう教育とか考え方が浸透して作られていくのではないかなと感じました。女性活躍とか、もっと社会進出を言われると頑張りたいと思う反面、女性をどうやったら引っ張り出せるかというところは、強制的なところではなく、認め合うところからなのかなと思います。私の会社も、比率としては女性の方が多くはすけれども、男性が入ったことによって、サクサクと時系列で物事が決めていけたりします。女性の比率は数字としてあらわれてしまっている部分は、確かに少ないとは思いますが。

いろいろな有名な人たちを活用してのPRだったり、交流を促進するような企画というのは県だから大々的にできてすごいなと思いますし、ラジオでも地域おこし協力隊の方で、定着して住んでいる人が自分はここに定住できて楽しんでいるという話を聞く機会が多くなっていると感じます。そうして地元だけではなかなか起用できないような、すでに有名な方を活用するというのはいいなと思います。軽米町の「ハイキュー！！」なども活用して冬場の誘客につなげるのはいいのではないかと思います。私は飲食をメインでやっていますが、宿泊施設とかもこれから新しく建てるというのはかなり厳しい社会

なのかなと思って見えています。岩手県の職員だったり、大きい企業さんが宿舎を建てなくていいように、何か活用できたらいいのではないかなと思っています。

【佐々木局長】 ありがとうございます。意識改革は、一番のキーワードになるのではないかなと思うぐらい痛感していて、子供からの教育というところが非常に大事だと思います。今の小学校の名簿は、男性女性関係なくできています。基本的には、いろいろな考え方の方がいらっしゃると思いますが、性別によってできることに制限が加えられる、もしくは、性別によって役割が決まってしまうという状況をどうやって無くしていくのかということだと思います。本人が望まないことまでやれということではないのだろうと思っていて、逆に、私は男だから私は女だからできないというようなことを無くしていくというのが必要で、それは男性でも女性でも、自ら持っているアンコンシャス・バイアスがそうさせている。それを無くしていくというのは、とても大事だろうなと思っています。自分の得意な分野を様々見つけて欲しいと思います。土木分野などでも活躍されている女性が多くいます。技術とかで活躍されている方は、男性女性関係なくいますし、今は力がない、男性と同じ筋肉量を持っていないとできない仕事というのは減っているような状況です。同じことをやれということじゃなくて、しっかりとできるようにするということが大事だろうと思います。それから地元での当たり前を気付くというのは大事なことで、我々県職員は半分ぐらいが単身赴任や地域外の出身者です。できるだけ職員には、地域を歩いて地域の良さを知って、何か活用できるところがあるのではないかなということや、地域を好きになることから始めて、発見して発信していきましょうということを私から言っています。しっかり発信しながら、地域に無かった意識や地域に足りない意識、地域からもらう意識を外に発信するということも、様々双方向でやっていければいいかなと思っています。

文化・スポーツ関連については、企画推進課長から説明します。

【木登企画推進課長】 資料2の指標の関係でございます。文化・スポーツの関係で、文化・スポーツの施設における催事数が減っているというところですけども、実際その指標の考え方は当初どのように考えたのかというところに左右されるところではありますが、実際管内すべての文化施設を集約しているわけではなく、一部になってしまうとどうしても数値が上下してしまうというところがございます。現状、今集計をしたところで、特定の施設にはなりますけども、その施設の催事数がどうして減ったのかというところを整理していきたいと思いますので、第2回目の地域運営懇談会には、お答えしたいと考えているところがございます。軽米町の「ハイキュー!!」とかありましたけれども、文化・スポーツを普及していくということは、そういったコンテンツを使って集客と考えたときにせっかくあるのになぜ活用しないのかと考えてしまうのは、その通りでございます。実際にそういったものを活用してPRしたいとなったときに、どうしても問題になって

くるのが、権利の関係です。なかなか名前も使えない、写真も使えないというのが現状です。これについては、県庁の担当課でも課題として認識しているところで、何らかの形で少しでも実現できるようなものは考えていきたいという答えを聞いているところでございます。

【佐々木局長】 さて、皆様からたくさんの発言をいただきましたので、二巡目三巡目があるのではないかとお話をしたんですが、大分時間が押して参りまして、まだ何点か御意見ちょうだいできる時間ありますので、この際、何か御発言される方おられましたら、お願いいたします。

【松川構成員】 先日、奥州市の牛の博物館に行ってきました。漫画家とのコラボ企画を開催していて面白かったですし、子供たちもたくさん来ているし、景色もよかったです。久慈地域だと「あまちゃん」がありますけど、もう少し活用したり今から掘り出しができないかなと感じました。

【佐々木局長】 いろいろと博物館とか、施設というものは、どうしても第一印象で抵抗がある人はいますよね。この中にも、御所野縄文博物館に行ったことがない人もいます。マリンローズパークも行っていない人もいるかもしれません。私がみちのく潮風トレイルを歩いていて、偶然会った人に今日はどこに行くんですかと聞いたら、マリンローズのマンガンボーイズに会いに行くと言っていた秋田の方と会いました。いろいろな楽しみ方や工夫をされている。この地域の楽しいところをどうやって発信していくのかというのは我々でもあるのかなと思いますし、意外とこの地域の人たちも知らないことが多いのではないかと考えています。地域で頑張っている人や企業があるので、地域を含めてPRしていくということは、とても大事だなと感じています。

その他、ありますでしょうか。

【岩本構成員】 この構成員意見への対応状況の中で、次回は数字が出てくればいいなと思っています。実施している取り組みは出ていますが、数字があれば、良くも悪くもいいと思います。悪くなっていれば改善すればいいと思いますので、その数字が次回出てくればいいなと思っています。それからDXについて、少し物足りない部分があります。今はファミレスでロボットが持ってきてくれますが、我が社でロボットのハーネスを供給しています。人が少なくなっていく中で、ロボット化とていうのは、製造業だけでなくもう少し力を入れて進めていければいいのかなと思いました。

【阿部構成員】 今現在、子育てをしているリアルな体感として、高校生から圏域外に出ていくという話も聞きますけれども、私の体感としてはもう既に中卒から出ていくのが、こ

こ数年多いと思っています。圏域の高校には行かない子が非常に増えている。対応は早くというわけではないですが、外を向く子供たち、親たちがとても増えてきている。それが悪いことではないと思います。いかにそういう人たちが戻ってきてくれるか、魅力のある地域を作っていくかというところが、もっともっと大事になっていくかなと思っています。

【佐々木局長】 ありがとうございます。数字についてはおっしゃるとおりだと思いますので、次回反映させていただきたいと思います。DXについては、県の大きな施策の方針の大きな柱の1つでありますので、きっかけづくりや国の補助金などに繋げるなどの支援ができると思いますので、制度のPRや我々の取り組みをPRしながら、地域を盛り上げていきたいと思っています。

それから高校の話はそのとおりです。地域外に出て行かれる方は相当いると思います。いろいろと地域の利便性確保ということの中には、地域の子供たちを囲い込むという発想は基本的にはしなくていいと思っており、知事もそう言っています。大谷翔平選手が奥州市に残ればよかったと思う人は誰もいないわけで、世界に向けて活躍できる人たちはもうどんどんどんどんいって活躍してください。それがひいては地域のためになるのだというような、我々も少し大きな気持ちを持たなければいけないですし、戻ってきたいという人たちにしっかりそういう場を与えてあげるといふ双方向の考え方が必要です。どういう方であっても幸せになれるという姿を作っていきましょうというのが知事の考え方です。囲い込むのではなくて、それがたまたま知らないがゆえに、地域に居場所がないと思って地域外に出て行く人が相当程度いるのだとすれば、それは地域にとってもその本人たちにとっても不幸ですので、そういったギャップはできるだけ無くしていきましょうという気持ちが大事で、そういうような発想でもって今の施策が動いているということをお理解いただければいいかなと思いますし、皆さんにも協力いただければ嬉しいと思います。

それでは時間になりました。本当に今日は貴重な御意見ありがとうございました。皆さんの御意見につきましては、これからの施策推進の参考にさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

4 その他

【似内副局長】 次第の4「その他」ですけれども、事務局では特に用意しているものはございません。構成員の皆様何かございますでしょうか。

5 閉会

【似内副局長】 以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。

次回第2回会議は11月中旬から12月上旬で、二戸地区での開催を予定しております。

また、本日出席いただいた構成の皆様は、後日、お礼の品を送付させていただきます。
本日はご多忙の中ご出席いただき、ありがとうございました。